

【下河-2】再評価

都市基盤河川改修事業 今井川改修事業

(下水道河川局)

【下河-3】再評価

都市基盤河川帷子川河川改修事業 (川井本町地区)

(下水道河川局)

CITY OF YOKOHAMA

横浜市公共事業評価【再評価】

【下河－2】

都市基盤河川改修事業 今井川改修事業

【下河－3】

都市基盤河川 帷子川河川改修事業
(川井本町地区)

- 下水道河川局 河川事業課
- 令和7年2月14日

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

河川改修事業の概要

目的：洪水による災害から市民の生命と財産を守り、良好な河川環境の整備と保全を図る基幹的な社会基盤施設である河川の整備

**基本方針：『中期計画』 セーフティ都市戦略
「次世代に引き継ぐ、安全・安心な都市づくりの推進」**

河川改修事業における費用対効果分析

■治水経済調査マニュアル(案)

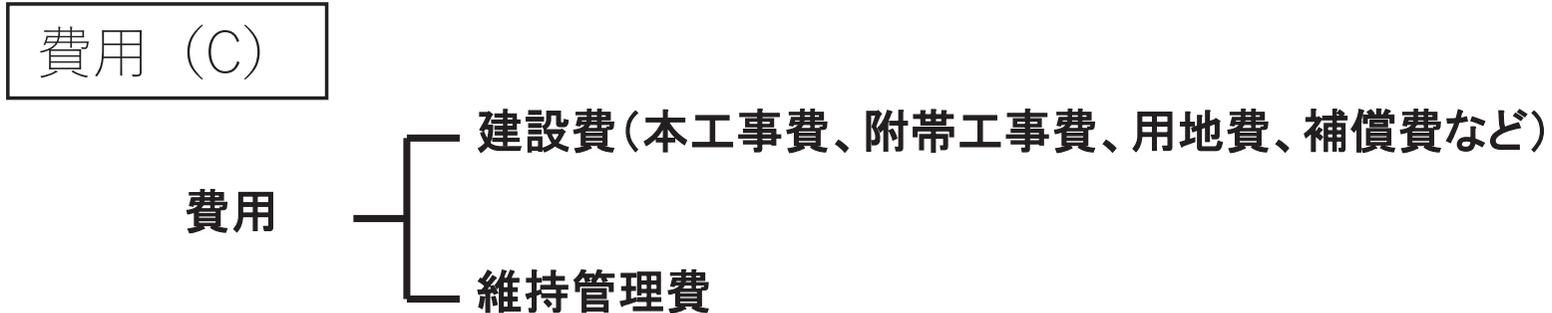
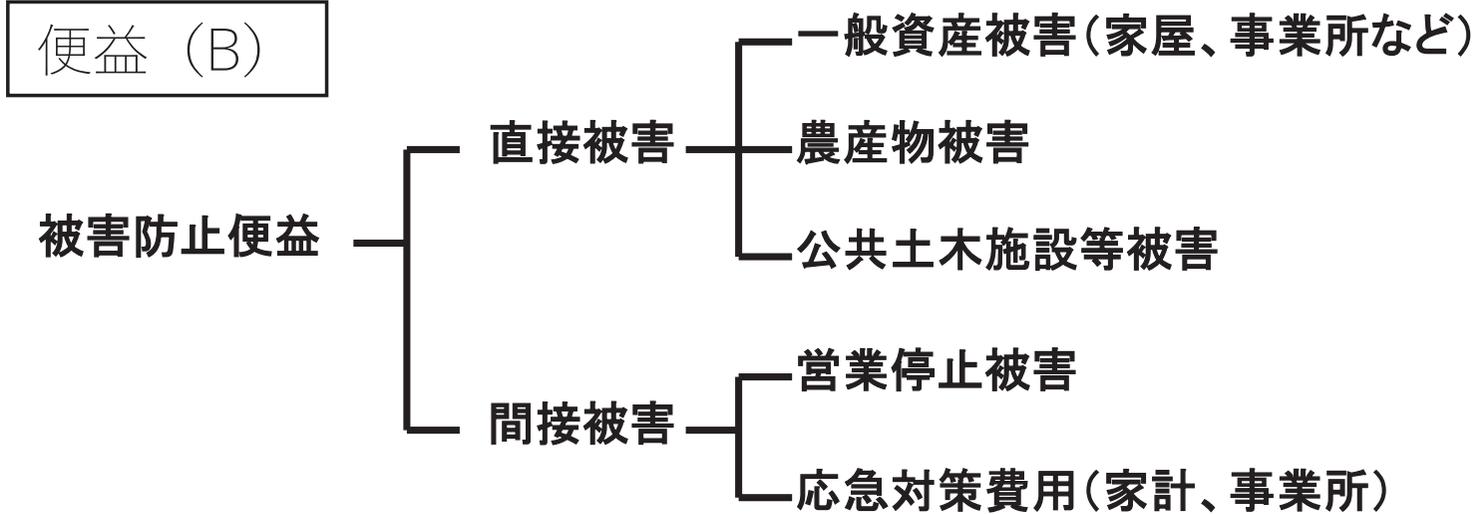
(令和6年4月国土交通省河川局)

■評価対象期間:整備期間+完成から50年

■社会的割引率:4%(2%)

(社会資本整備に係わる費用対効果分析に関する統一的運用指針による)

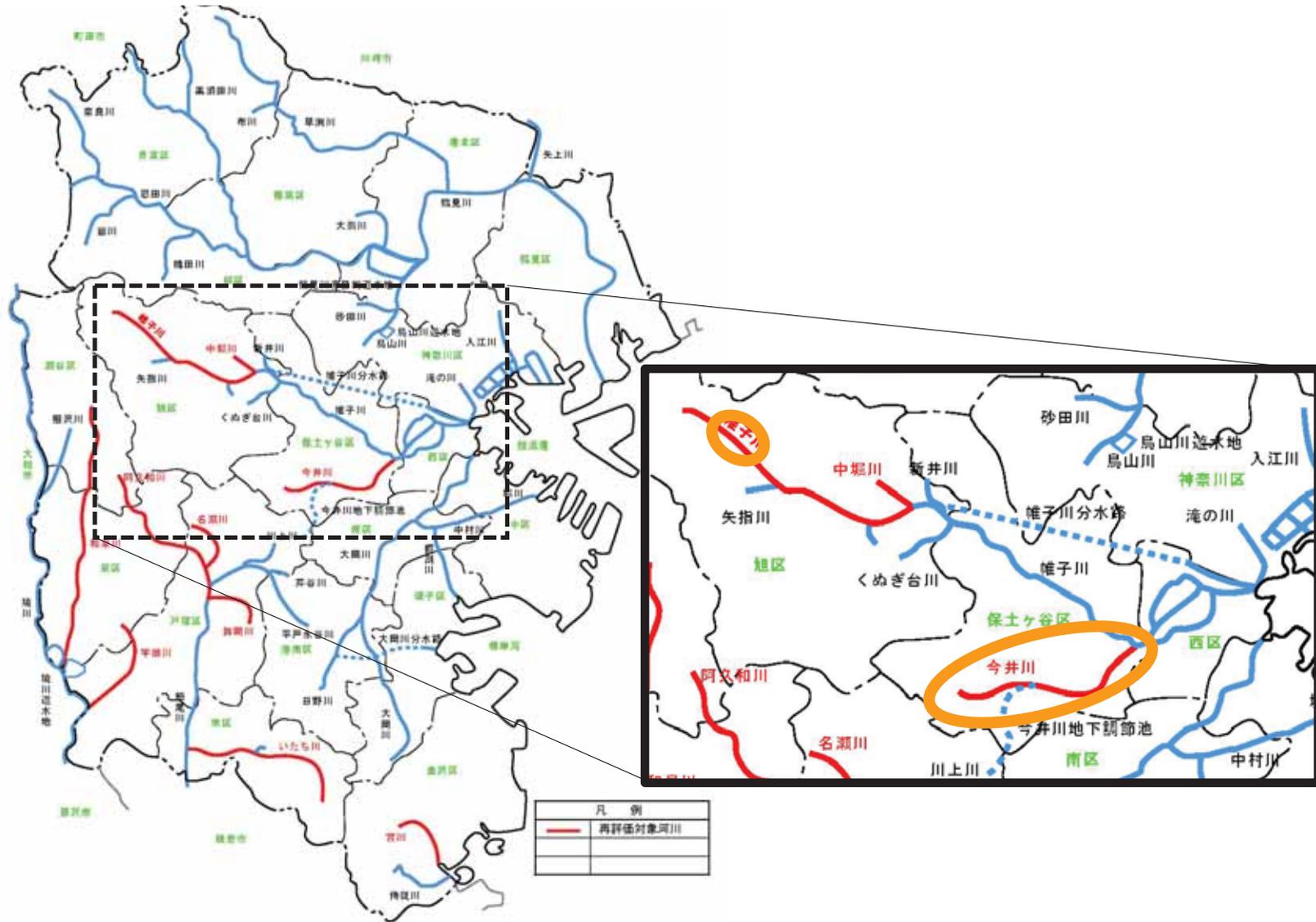
■現在価値化の基準時点:評価時点



総便益 = 評価対象期間における年便益の総和
 + 評価対象期間終了時点における残存価値

総費用 = 現在価値化した事業費及び維持管理費の総和

今回の事業再評価対象



【下河-2】再評価

都市基盤河川改修事業 今井川改修事業

(下水道河川局)

CITY OF YOKOHAMA

横浜市公共事業評価【再評価】

【下河－2】

都市基盤河川改修事業 今井川改修事業

- 下水道河川局 河川事業課
- 令和7年2月14日

明日をひらく都市
OPEN X PIONEER

これまでの経緯

1 評価状況

評価段階	事前評価	再評価	再評価	再評価
付議状況	－	平成10年度	平成15年度	平成20年度
意見具申	－	あり	あり	なし
事業費	－	1163.7億円	1163.7億円	1163.7億円
事業期間	－	昭和62年～ 平成22年度	昭和62年～ 平成22年度	昭和62年～ 平成22年度

今回評価

評価段階	再評価	再評価	再評価	事後評価
付議状況	平成25年度	平成30年度	令和6年度	
意見具申	なし	なし	なし	
事業費	1163.7億円	1163.7億円	1163.7億円	
事業期間	昭和62年～ 平成39年度	昭和62年～ 平成39年度	昭和62年～ 令和25年度	

これまでの経緯

2 前回までの主な意見と対応状況

主な意見（要約）	対応	備考
<p>・降雨量基準を現実に即したものに直し、50mmから60mmへの対応を早急に進める必要がある。（守田委員・望月委員）</p>	<p>・将来的に時間降雨量60mmへ整備水準を上げる計画を持っている。現在は下流の帷子川の整備を進めており、その進捗に応じて60mm対応を進める方針【H30】。</p>	
<p>・ハード対策（河川拡幅や遊水地の増設）とソフト対策（ハザードマップの改良や市民周知）を適切に組み合わせるべき。（鷲津委員）</p>	<p>・下水道との連携や市民向けハザードマップ作成を進めている【H25】。 ・想定を超える雨量に対し、ハザードマップの更新や「逃げ遅れゼロ」を目標に周知対策を進める【H30】。 ・ハード対策として時間降雨量50mmで護岸整備を進めていくのに加えて、ソフト対策として、想定し得る最大規模の降雨が発生した場合の浸水ハザードマップに改定され、周知を進めている。【今回】</p>	
<p>・降雨量基準（50mm）の変更に伴い、B/C値が下がる可能性があり、事業効果が十分に見えにくくなる。</p>	<p>・B/C算定において、未整備の状態から時間降雨量60mmに変更した場合と、50mmの整備が完了してから残り10mm分を実施する場合とでは、後者のB/Cが厳しくなるが、将来計画の深さですでに鋼管護岸を整備しているため、工事費の削減となり事業効果が見込めると考えられる。【今回】</p>	

今井川流域の被害状況

昭和57年9月12日
台風18号

浸水家屋	
床上浸水	166戸
床下浸水	428戸
計	594戸

平成16年10月8日-10日
台風22号

浸水家屋	
床上浸水	70戸
床下浸水	37戸
計	107戸

平成26年10月5日-6日
台風18号

浸水家屋	
床上浸水	1戸
床下浸水	3戸
計	4戸



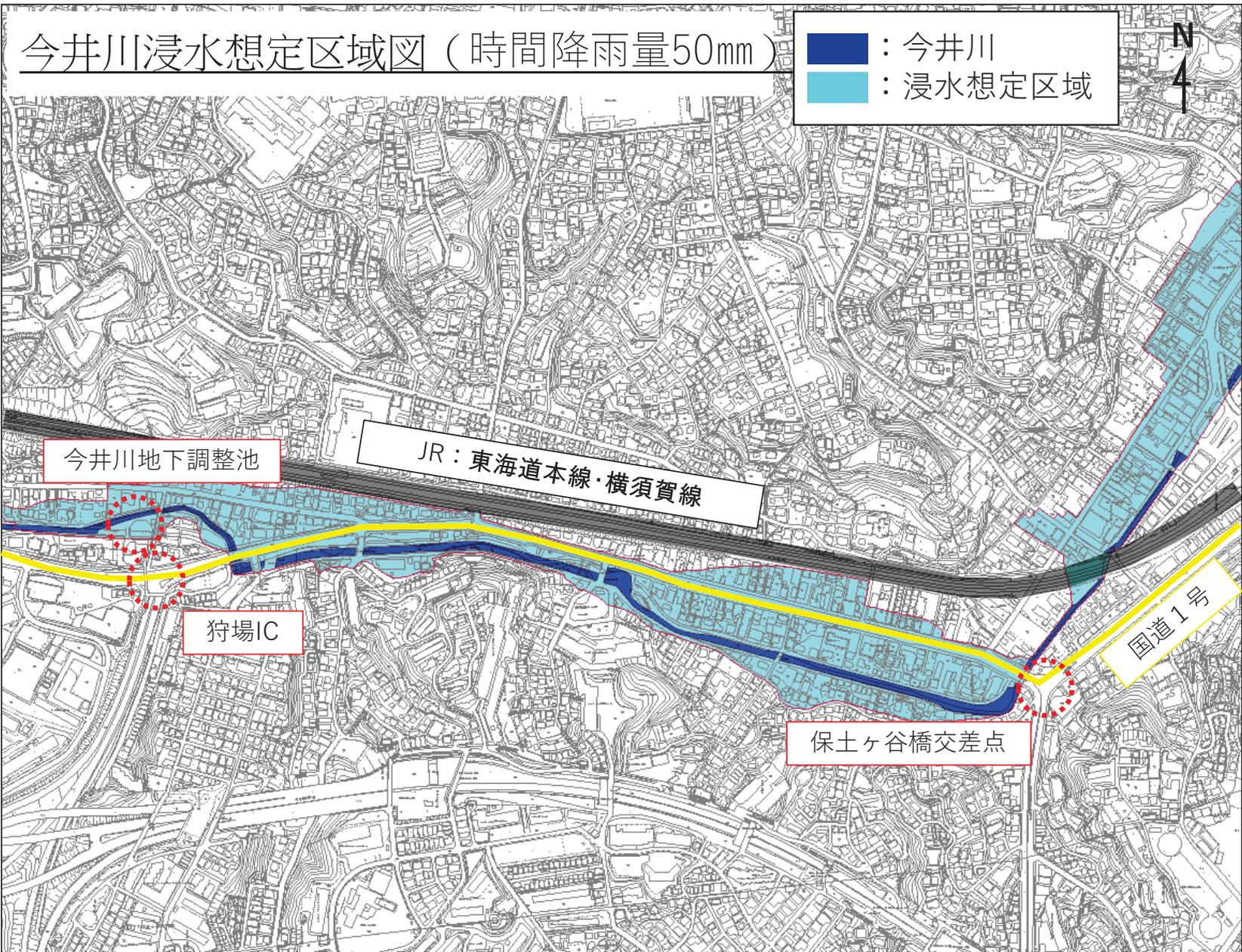
帷子川合流点付近・溢水状況



保土ヶ谷駅付近・護岸崩壊状況



保土ヶ谷バイパス付近
河岸崩壊状況



今井川改修事業の概要

横浜市建築局都市計画基本図データにより作成



上流部・JR新規横断箇所
(未整備区間)



今井川地下調節池 (整備完了)

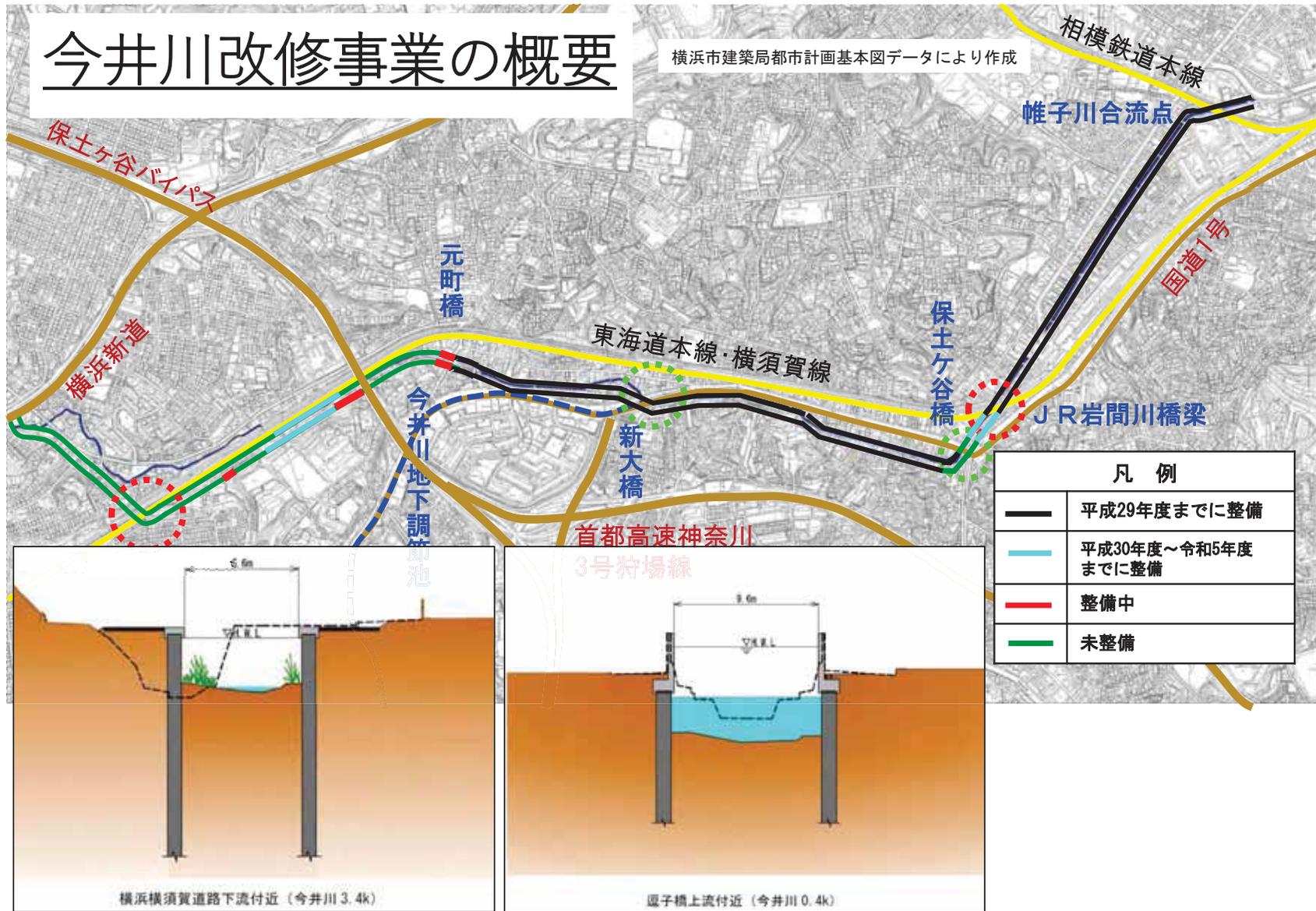


J R岩間川橋梁 (完成状況)



今井川改修事業の概要

横浜市建築局都市計画基本図データにより作成



整備前後の河川断面イメージ

進捗状況（帷子川合流点上流）【改修済】



進捗状況（JR岩間川橋梁）【改修済】



進捗状況（保土ヶ谷橋）【未改修】



進捗状況（元町橋 下流）【改修済】



進捗状況（元町橋 上流）【未改修】



進捗状況（環境配慮）【改修済】



総事業費・事業手法

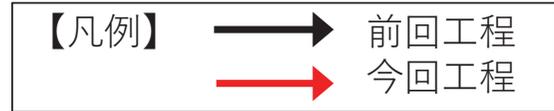
河川整備費：約1163.7億円

(国費約387.9億円、県費約387.9億円、市費約387.9億円)

事業手法：都市基盤河川改修事業（補助率2/3（国1/3、県1/3））

項目	金額（税込）	内訳
用地取得費	約 162.6億円	用地購入費：約 104.9億円 物件補償：約 57.7億円
補償費	約 17.3億円	補償費：約 17.3億円
工事費	約 962億円	本工事費：約 802.2億円 附帯工事費：約 159.9億円
設計費	約 21.8億円	設計費：約 21.8億円
計	約 1163.7億円	

事業スケジュール

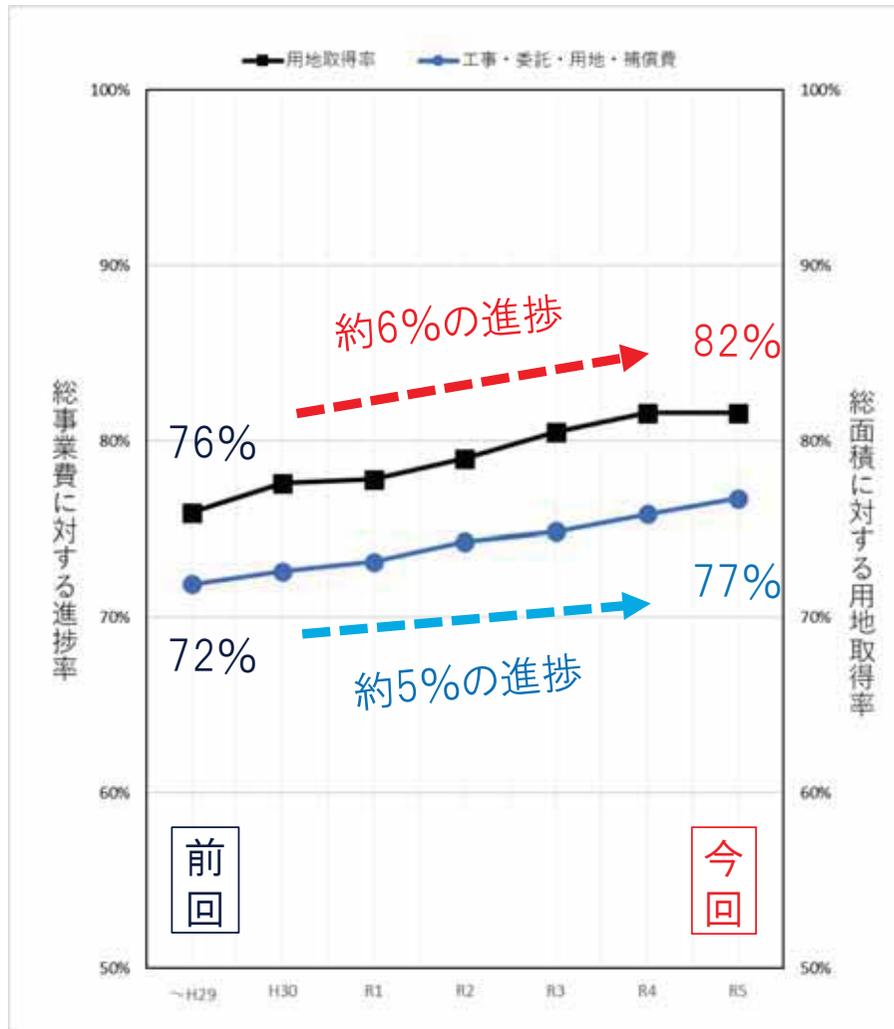


○主な変更点

事業期間 前回評価…令和9年度 今回評価…令和25年度

元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事において、地元住民や関係機関との協議が長期化しており、合意形成に時間を要しています。そのため、事業期間を令和25年度まで延長することとなりました。

事業進捗の推移

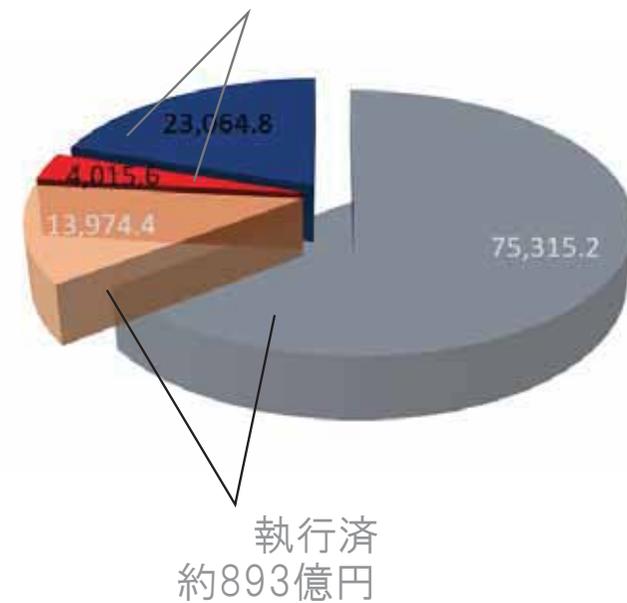


【総事業費】1,163.7億円

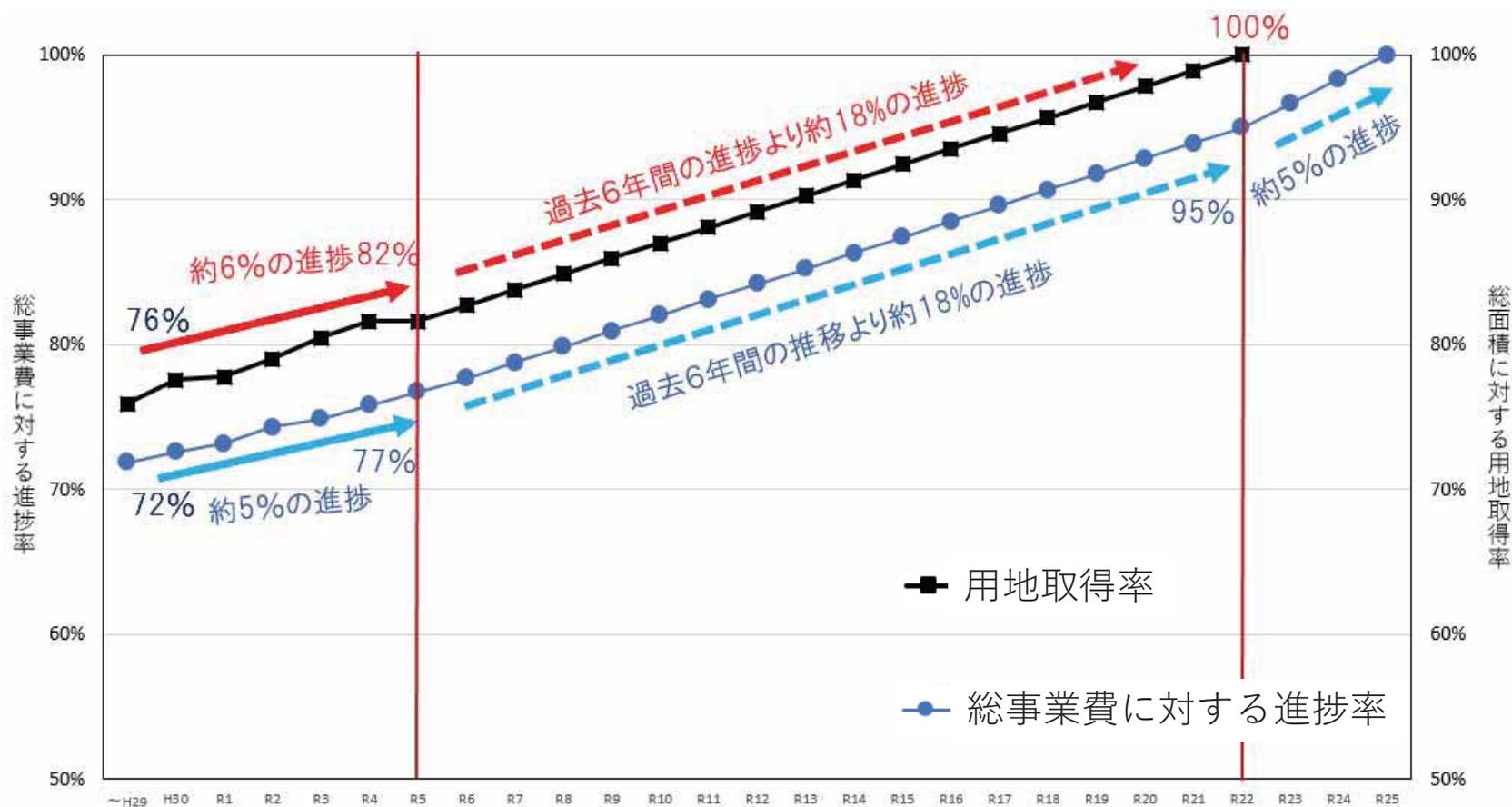
用地・補償費
179.9億円

工事費
983.8億円

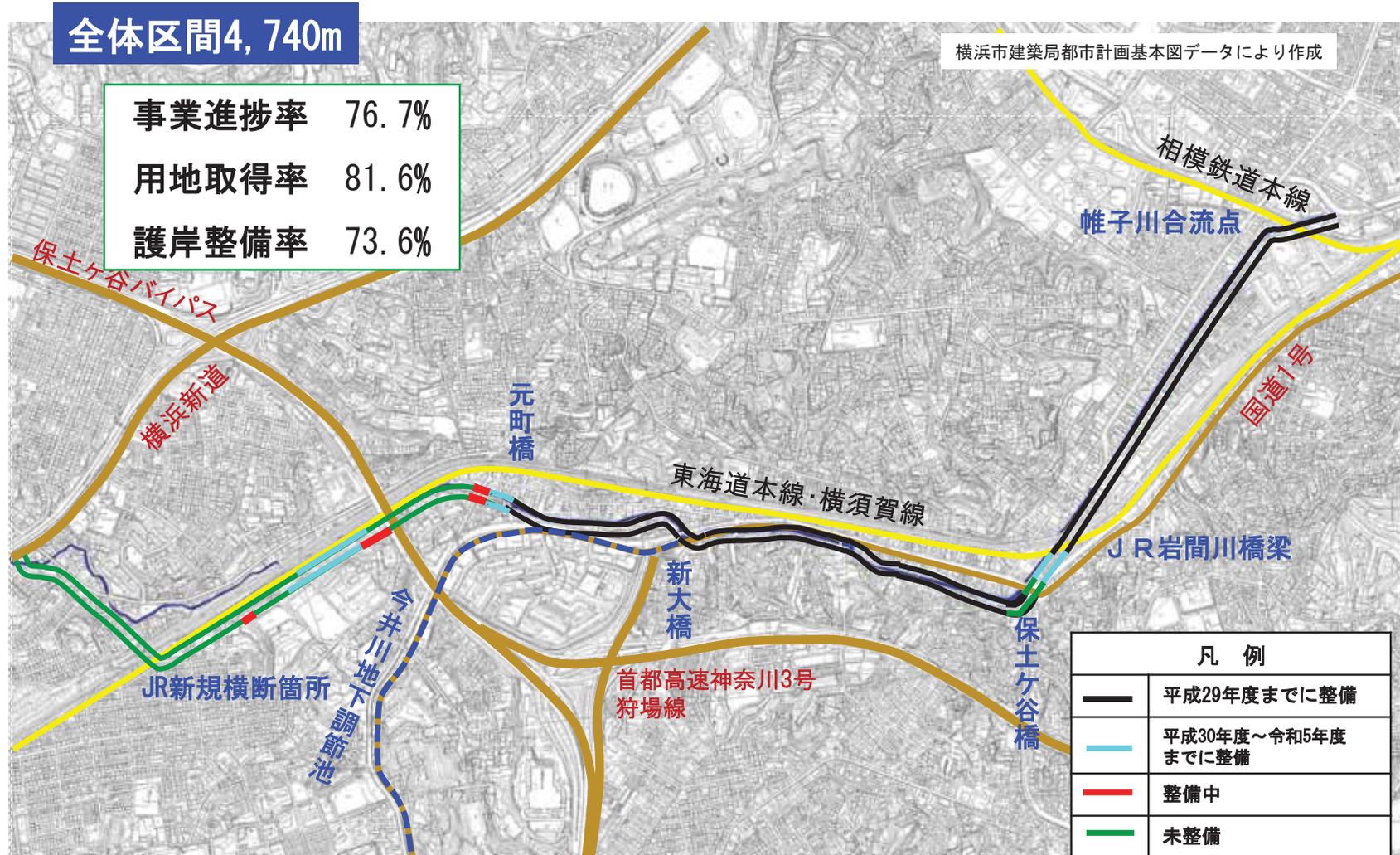
残事業費
約271億円



事業進捗の推移（今後の見込み）



残事業の内容



事業の投資効果

社会的割引率	4%	2%
総便益(B)(百万円)	544,866	593,594
総費用(C)(百万円)	339,801	231,090
費用便益比(B/C)	1.60	2.57

事業の投資効果（感度分析）

		全事業		残事業	
		4%	2%	4%	2%
基本		1.60	2.57	6.77	8.01
事業費	+10%	1.57	2.52	6.34	7.56
	-10%	1.64	2.62	7.25	8.51
工期	+10%	1.61	2.58	6.89	8.11
	-10%	1.60	2.55	6.64	7.91
資産	+10%	1.74	2.79	7.34	8.68
	-10%	1.47	2.35	6.19	7.34

対応方針（案）

事業の課題 及び 進捗見込み	<p>平成15年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。</p> <p>国道1号保土ヶ谷橋においては、現在未買収用地の取得及び施工計画について協議中です。元町橋においては、現在協議等が完了しており、工事を進めています。</p> <p>進捗見込みについては、引き続き、護岸改修を進めながら用地取得及び協議を並行して進め、令和25年度の事業完了に向けて進めていきます。</p>
対応方針(案)	計画通り、現在の事業を継続します。
対応方針（案） とした理由	<p>元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事における地元住民や関係機関との協議の長期化や用地取得が難航していることにより事業期間の延長が必要となりましたが、費用便益分析の結果より本事業に対する効果は十分に得られることが確認できたことから、今後も本事業を継続する必要があると考えられます。</p>

(様式4)

公共事業再評価調書(案)

番 号	下河-2	事業担当局課	下水道河川局河川事業課			
事業名	都市基盤河川改修事業 今井川改修事業			採択年度	昭和62年	
施工場所	横浜新道 ~ 帷子川合流点 (保土ヶ谷区今井町~保土ヶ谷区岩間町)			経過年数	36	
目的及び 事業概要	<p>今井川流域では、新桜ヶ丘団地・東戸塚グリーンタウンなど大規模な宅地開発による都市化が進み、降雨時に流出量が増大するとともに河川へ短時間に雨水が流入するため、治水対策として河川改修工事に着手しています。</p> <p>【目標流量】50m³/sec 【治水安全度】50mm/hr 【流域面積】7.6 km² 【改修計画延長】4,740m 【流路勾配】1/600~1/200 【浸水想定面積】49 ha</p>					
		当初 (事業採択時)	前回再評価時 (平成30年度)	今回再評価 (令和6年度)		
	事業期間	昭和62年~ 平成22年度	昭和62年~ 平成39年度	昭和62年~ 令和25年度		
	事業費	合計	1,163.7億円	1,163.7億円	1,163.7億円	
		国費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
		県費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
		市費	387.9億円	387.9億円	387.9億円	
	変更内容	<p>元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事において、地元住民や関係機関との協議が長期化しており、合意形成に時間を要しています。そのため、事業期間を令和25年度まで延長することとなりました。今後、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び上流のJR横断部の協議を並行して進めることで事業進捗を図ります。</p>				
上位計画等	<p>「中期4か年計画」では、基本戦略「都市の持続可能性」に関する政策の一つである「風水害に強い都市づくり」の中で、激甚化する風水害への対策として、流域治水の推進や河川改修などを総合的に進めることとしております。</p>					
関連事業	<p>一般国道1号(保土ヶ谷橋工区)、東海道の歴史的資源を活かしたみちづくり整備計画(案)</p>					
事業スケジュール	<p>The Gantt chart displays the project schedule from the 5th year to the 30th year. The x-axis represents years (5年目, 10年目, 15年目, 20年目, 25年目, 30年目). The y-axis lists project items: 用地取得・物件補償 (Land acquisition and property compensation), 測量設計 (Measurement and design), and 工事・支障移設 (Construction and obstacle relocation). A legend at the bottom right indicates that black arrows represent '前回工程' (Previous project) and red arrows represent '今回工程' (Current project). The current project phases are: 用地取得・物件補償 (red arrow, 5th year to 25th year), 測量設計 (red arrow, 5th year to 25th year), and 工事・支障移設 (red arrow, 5th year to 30th year). A note '関係機関協議の長期化' (Long-term delay in stakeholder negotiations) is placed under the construction phase. A label 'H30' is positioned above the 5th year mark.</p>					

総事業費		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額（税込）</th> <th>内訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">用地取得費</td> <td rowspan="2">約162.6億円</td> <td>用地購入費：約104.9億円</td> </tr> <tr> <td>物件補償：約57.7億円</td> </tr> <tr> <td>補償費</td> <td>約17.3億円</td> <td>補償費：約17.3億円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工事費</td> <td rowspan="2">約962億円</td> <td>本工事費：約802.2億円</td> </tr> <tr> <td>附帯工事費：約159.9億円</td> </tr> <tr> <td>設計・調査費</td> <td>約21.8億円</td> <td>測量設計費：約21.8億円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>約1163.7億円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額（税込）	内訳	用地取得費	約162.6億円	用地購入費：約104.9億円	物件補償：約57.7億円	補償費	約17.3億円	補償費：約17.3億円	工事費	約962億円	本工事費：約802.2億円	附帯工事費：約159.9億円	設計・調査費	約21.8億円	測量設計費：約21.8億円	計	約1163.7億円						
	項目	金額（税込）	内訳																								
	用地取得費	約162.6億円	用地購入費：約104.9億円																								
			物件補償：約57.7億円																								
	補償費	約17.3億円	補償費：約17.3億円																								
	工事費	約962億円	本工事費：約802.2億円																								
			附帯工事費：約159.9億円																								
設計・調査費	約21.8億円	測量設計費：約21.8億円																									
計	約1163.7億円																										
		※現在価値化を行う前の数字となります。B/C の算出の際には、現在価値化をし、感度分析により物価上昇等を考慮した計算を行っております。																									
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>近年では、気候変動に伴い激甚化・頻発化する風水害に対し、洪水や内水氾濫、土砂災害等の被害をできる限り防ぎ、人命と社会経済活動を守る安全な都市をつくるため、流域全体のあらゆる関係者が一体となって取り組む「流域治水」に向けた取組が進んでいます。</p> <p>今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間で河川へ流入するようになり、頻発する局地的大雨に備えた浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしていますが、上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。</p>																									
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>事業全体</th> <th>残事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>割引率</td> <td colspan="2">4% (2%)</td> </tr> <tr> <td>総便益(B) (百万円)</td> <td>544,866 (593,594)</td> <td>210,628 (349,065)</td> </tr> <tr> <td>総費用(C) (百万円)</td> <td>339,801 (231,090)</td> <td>31,128 (43,574)</td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.60 (2.57)</td> <td>6.77 (8.01)</td> </tr> <tr> <td>感度分析 [事業費+10%]</td> <td>1.57 (2.52)</td> <td>6.34 (7.56)</td> </tr> <tr> <td>感度分析 [工期-10%]</td> <td>1.60 (2.55)</td> <td>6.64 (7.91)</td> </tr> <tr> <td>感度分析 [資産-10%]</td> <td>1.47 (2.35)</td> <td>6.19 (7.34)</td> </tr> </tbody> </table>		事業全体	残事業	割引率	4% (2%)		総便益(B) (百万円)	544,866 (593,594)	210,628 (349,065)	総費用(C) (百万円)	339,801 (231,090)	31,128 (43,574)	費用便益比(B/C)	1.60 (2.57)	6.77 (8.01)	感度分析 [事業費+10%]	1.57 (2.52)	6.34 (7.56)	感度分析 [工期-10%]	1.60 (2.55)	6.64 (7.91)	感度分析 [資産-10%]	1.47 (2.35)	6.19 (7.34)
			事業全体	残事業																							
		割引率	4% (2%)																								
		総便益(B) (百万円)	544,866 (593,594)	210,628 (349,065)																							
		総費用(C) (百万円)	339,801 (231,090)	31,128 (43,574)																							
		費用便益比(B/C)	1.60 (2.57)	6.77 (8.01)																							
		感度分析 [事業費+10%]	1.57 (2.52)	6.34 (7.56)																							
		感度分析 [工期-10%]	1.60 (2.55)	6.64 (7.91)																							
	感度分析 [資産-10%]	1.47 (2.35)	6.19 (7.34)																								
	[その他特記事項] 感度分析：事業費、工期、資産において、想定外の10%の増減が発生した場合の事業の経済的影響を分析																										

事業の進捗状況	事業進捗率%	平成 30 年度の再評価(平成 29 年度末)より、令和 5 年度末までに元町橋上流、保土ヶ谷橋下流区域の護岸改修を推進し、事業が 4.8%進捗しました。用地は 2,902 m ² を取得し、5.7%の進捗となっています。未買収用地は約 9,500 m ² 残存しており、優先順位をつけて取得交渉を進めています。
	76.7%	
	用地取得率%	また、改修済みの護岸延長は、計画延長に対して 73.6%の進捗となっています。
	81.6%	
	供用等の状況	
	工事完了区間活用	
事業の課題及び進捗見込み	<p>平成 15 年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。</p> <p>国道 1 号保土ヶ谷橋においては、現在未買収用地の取得及び施工計画について協議中です。元町橋においては、現在協議等が完了しており、工事を進めています。</p> <p>進捗見込みについては、引き続き、護岸改修を進めながら用地取得及び協議を並行して進め、令和 25 年度の事業完了に向けて進めていきます。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮：工事による周辺の皆様への影響を可能な限り低減いたします。市街地での工事を含むため、作業基地への資材の搬出入などに伴う工事車両の通行については、交通誘導員を適切に配置し、作業基地周辺の安全性の確保及び周辺道路の交雑緩和に努めます。 ・工事中の低公害型建設機械の使用や建設副産物のリサイクルを行うとともに、横浜市環境配慮指針に基づいて今後の設計・施工段階において積極的に環境に配慮して取り組みます。 ・また、今井川沿いの河川環境配慮の一環として整備された歴史的な松並木プロムナードがあり、河道沿いの広場整備や生態系に配慮した魚道の整備を行っています。 ・本事業で、新しく河道を整備した区間を暫定的に洪水を貯留できる施設としての利用を検討していきます。 	
その他	—	
添付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・案内図 ・概要平面図 ・前回再評価内容との比較 ・今井川 都市基盤河川改修事業の概要 ・事業費推移・進捗グラフ ・現況写真 	
対応方針 (案)	継続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2

		【見直し内容】
	中 止	

対応方針 (案) として 理由	元町橋および保土ヶ谷橋の架替工事における地元住民や関係機関との協議の長期化や用地取得が難航していることにより事業期間の延長が必要となりましたが、費用便益分析の結果より本事業に対する効果は十分に得られることが確認できたことから、今後も本事業を継続する必要があると考えられます。
-----------------------	---

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

概要平面図



前回再評価内容との比較 今井川 都市基盤河川改修事業

	前回（平成30年度）	今回（令和5年度）	5年間の経過
事業を巡る社会経済情勢等の変化	今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間に河川へ流入するようになりました。近年では、各地で頻発する局地的大雨に備えた浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしていますが、上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。	今井川流域では、市街化が進み、斜面地まで住宅が建設されたため、雨水が短時間に河川へ流入するようになりました。近年では、計画規模を越える大雨が各地で頻発しており、浸水対策が必要となっています。中流部の地下調節池は、商業施設や人口が集中する保土ヶ谷駅及び天王町駅周辺の浸水被害軽減に役割を果たしており、JR橋梁付近の護岸改修も進めていますが、上流部の治水安全度を高めるため、早期に事業進捗を図る必要があります。	・局地的大雨の頻発
事業進捗率	71.9%	76.7%	+ 4.8%
用地取得率	75.9%	81.6%	+ 5.7%
供用等の状況	工事完了区間活用	工事完了区間活用	—
事業の進捗見込	平成15年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。 引き続き、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び国道1号保土ヶ谷橋や元町橋の協議を並行して進め、平成39年度の事業完了を目指します。	平成15年度の地下調節池完成により、資産が集中する下流部の浸水被害軽減に大きな役割を果たしており、今後は、上流部の治水安全度を向上させるため、改修を進める必要があります。 引き続き、護岸改修を進めながら、未買収用地の取得及び国道1号保土ヶ谷橋や元町橋の改修を並行して進め、令和25年度の事業完了を目指します。	前回再評価（H30）から、護岸改修、用地取得ともに着実に進捗が図られております。
前回委員会での主な意見等	特になし		

今井川 都市基盤河川改修事業の概要

(1) 事業内容

流域の概要

二級河川帷子川水系今井川は、横浜市保土ヶ谷区今井町の横浜カントリークラブに源を発し、北東に流れ、保土ヶ谷区岩間町で帷子川と合流する二級河川です。
流域面積7.6km²、延長7.0km、改修計画区間は上流の横浜新道から帷子川合流点までの4,740mです。

計画諸元

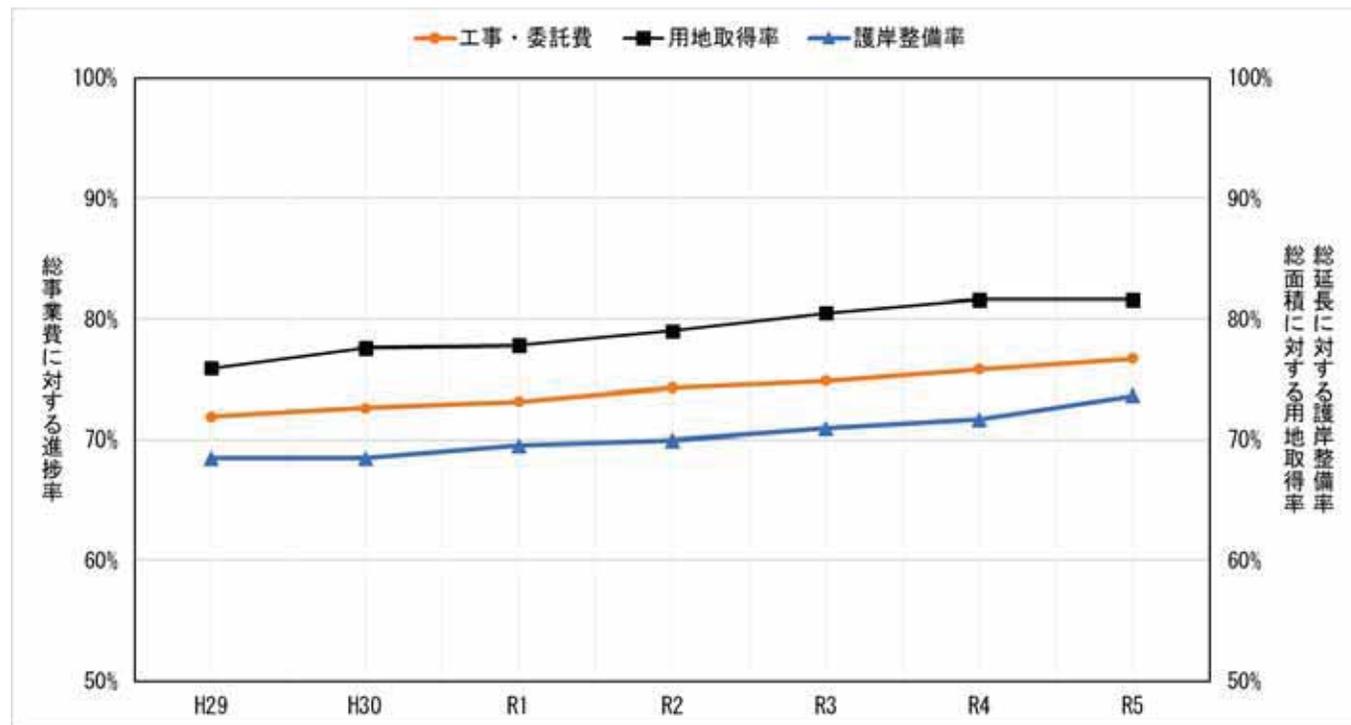
降雨確率	1/6.3年
計画時間降雨	50mm/h r
計画高水流量	50m ³ /sec
河道幅	10.5~5.9m
水深	3.3~2.4m
流路勾配	1/600~1/200

(2) 事業費

	事業費	備考
総事業費	1,163.7億円	
内訳 用地・補償費	179.9億円	
工事費	983.8億円	
令和5年度末の執行済事業費	892.9億円	
内訳 用地・補償費	139.7億円	
工事費	753.2億円	
今後の残事業費(予定)	270.8億円	
内訳 用地・補償費	40.2億円	
工事費	230.6億円	

(3) 事業費推移・進捗グラフ

年度	事業費（百万円）					用地取得（m ² ）			護岸整備（m）			備考
	工事・委託費	用地・補償費	年度計	累計	進捗率	年度計	累計	進捗率	年度計	累計	進捗率	
～H27	69,543.7	12,133.4	81,677.1	81,677.1	70.2%	34,706	34,706	67.5%	6,201	6,201	65.4%	
H28	780.5	192.0	972.4	82,649.5	71.0%	2,954	37,660	73.3%	104	6,305	66.5%	
H29	633.2	369.3	1,002.6	83,652.1	71.9%	1,362	39,022	75.9%	186	6,491	68.5%	前回
H30	582.6	259.5	842.0	84,494.1	72.6%	855	39,877	77.6%	0	6,491	68.5%	
R1	375.0	255.3	630.3	85,124.4	73.1%	133	40,010	77.8%	98	6,589	69.5%	
R2	1,042.5	302.8	1,345.3	86,469.7	74.3%	581	40,591	79.0%	41	6,629	69.9%	
R3	389.9	272.3	662.2	87,131.8	74.9%	800	41,391	80.5%	91	6,721	70.9%	
R4	973.9	137.7	1,111.6	88,243.4	75.8%	531	41,922	81.6%	73	6,793	71.7%	
R5	994.1	52.2	1,046.2	89,289.7	76.7%	2	41,924	81.6%	188	6,981	73.6%	今回
計	75,315.3	13,974.4	89,289.7			41,924			6,981			
総事業費	98,380.0	17,990.0	116,370.0			51,400			9,480			



改修完了区間



JR 岩間川橋梁



JR 岩間川橋梁上流



新大橋



整備中、未整備区間



上流部・JR 新規横断箇所(未整備区間)



今井川地下調節池



【下河-3】再評価

都市基盤河川帷子川河川改修事業（川井本町地区）

（下水道河川局）

CITY OF YOKOHAMA

横浜市公共事業評価【再評価】

【下河－3】

都市基盤河川 帷子川河川改修事業 (川井本町地区)

- 下水道河川局 河川部 河川事業課
- 令和7年2月14日

明日をひらく都市
OPEN × PIONEER

これまでの経緯

1 評価状況

今回評価

評価段階	事前評価	再評価	
付議状況	令和元年度（第1回）	令和6年度（第1回）	
意見具申	なし	なし	
事業費	約58億円	約50億円	
事業期間	令和元年度～令和15年度	令和元年度～令和15年度	

これまでの経緯

2 前回までの主な意見と対応状況①

主な意見（要約）	対応	本資料での該当ページ	備考
帷子川の改修が横浜駅周辺の浸水被害低減につながるのか	平成9年に帷子川分水路が整備されており、浸水リスクが大きく減少していると説明【R元年】		
工場や寺院の用地取得状況を確認し、進捗を促すべき	工場用地は土地取得を完了している。寺院の用地についても部分的に取得が完了しており、残りの用地も早期取得に努めていく【今回】	P.10	

これまでの経緯

2 前回までの主な意見と対応状況②

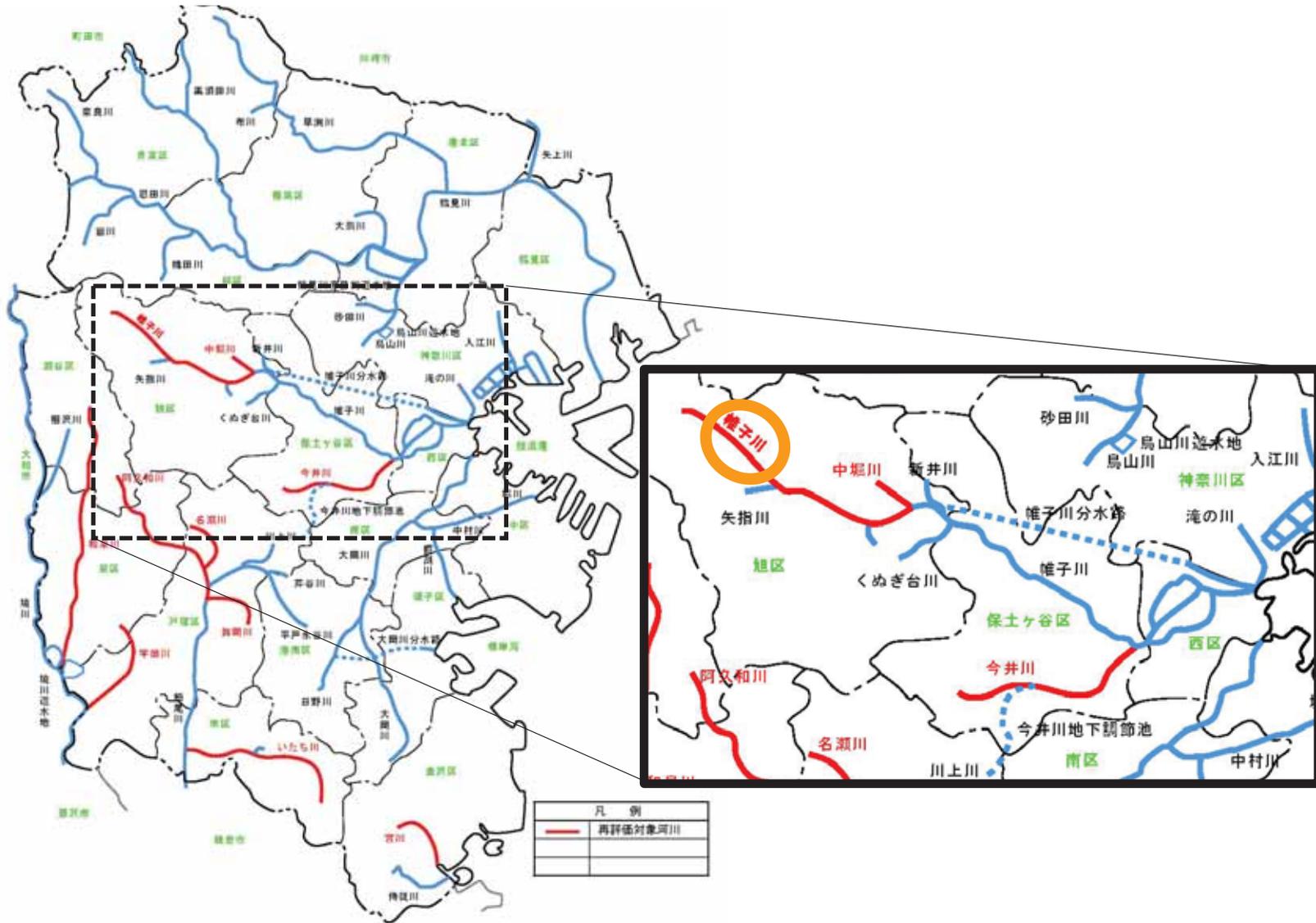
主な意見（要約）	対応	本資料での該当ページ	備考
B/C評価に旧河道の流量を見込んでいるか。 超過降雨も踏まえ、旧河道の利活用を検討すべきでないか。	旧河道の流量は見込んでいない【R元年】 旧河道の利活用として、下流域では地下に大口径の暗きょを設置し、地表部を遊歩道とする整備を行っている。今後も同様の整備で局地的な集中豪雨に対応できるか検討を進めていく【今回】		

これまでの経緯

2 前回までの主な意見と対応状況③

主な意見（要約）	対応	本資料での該当ページ	備考
下水道との連携や治水対策の効果についてどうなっているか。	本年度から下水道河川局となり、河川事業と下水道事業がより連携することが可能になると考えている【今回】 下水道部署と連携して、バイパス管を整備し、浸水被害を抑制する効果が確認できたと報告【R元年】 本事業で、新しく河道を整備した区間を暫定的に洪水を貯留できる施設として利用している。【今回】	P.16	

今回の事業再評価対象



2. 事業概要

場所

横浜市旭区川井宿町5番地7から川井本町115番地1

事業目的

背景：急速な都市化により降雨時の流出量が増大し、
河川の流下能力不足による浸水被害がたびたび
発生



目的：河川の流下能力向上により浸水被害を軽減

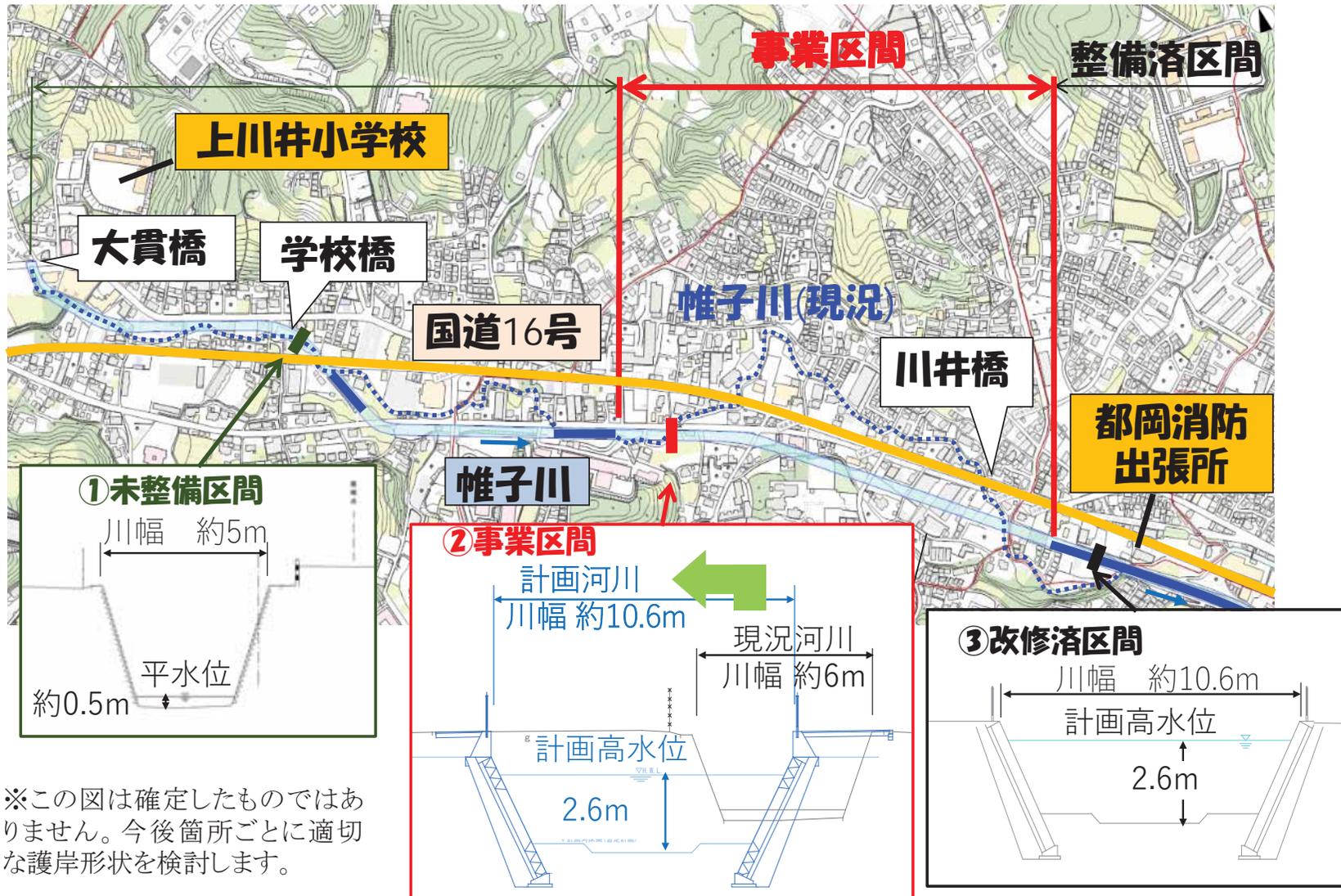
主な事業概要

用地取得：約3,750m²

河川整備・護岸設置：約680m

道路橋設置：6橋

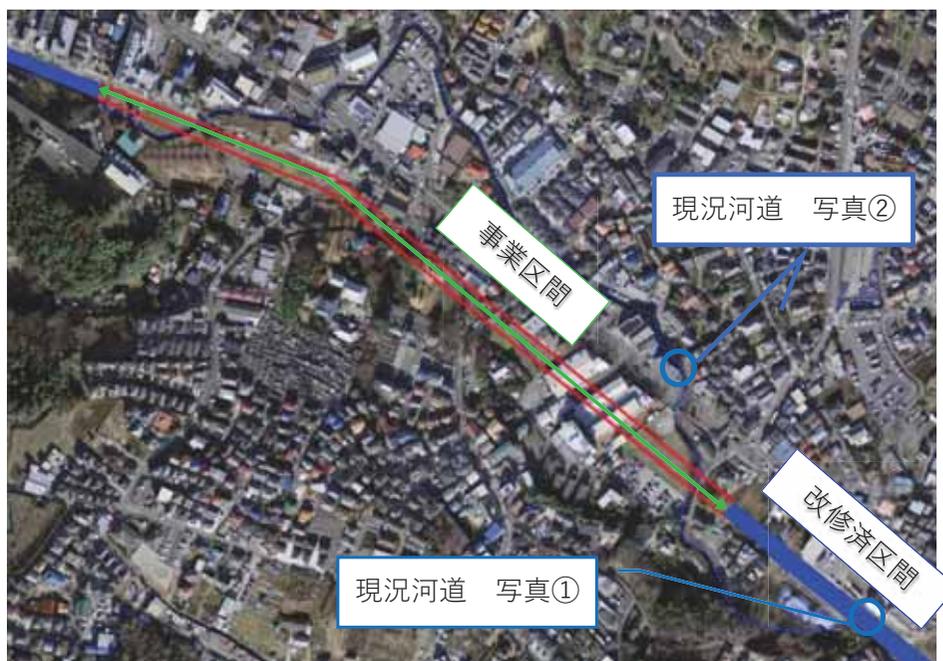
3. 事業の必要性



現況河川と計画河川の断面イメージ

3. 事業の必要性

現況河道の状況



..... 現況河道の位置
==== 施工予定の位置



3. 事業の必要性

現況河道の状況



3. 事業の必要性

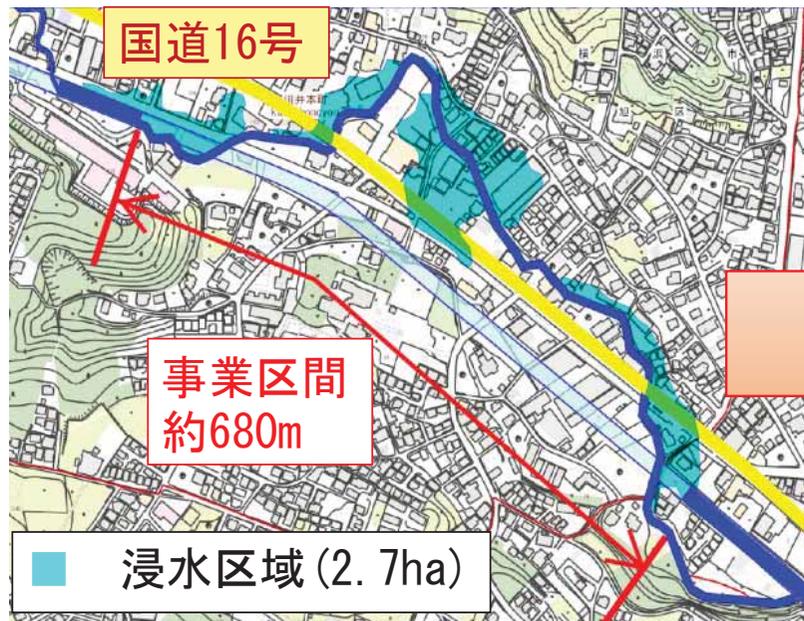
近年の浸水被害

- 平成25年4月洪水（大雨警報） 最大時間雨量53.5mm
床上浸水9棟 床下浸水22棟 （都岡消防出張所）
- 平成26年10月洪水（台風18号） 最大時間雨量56.5mm
床上浸水5棟 床下浸水10棟 （都岡消防出張所）

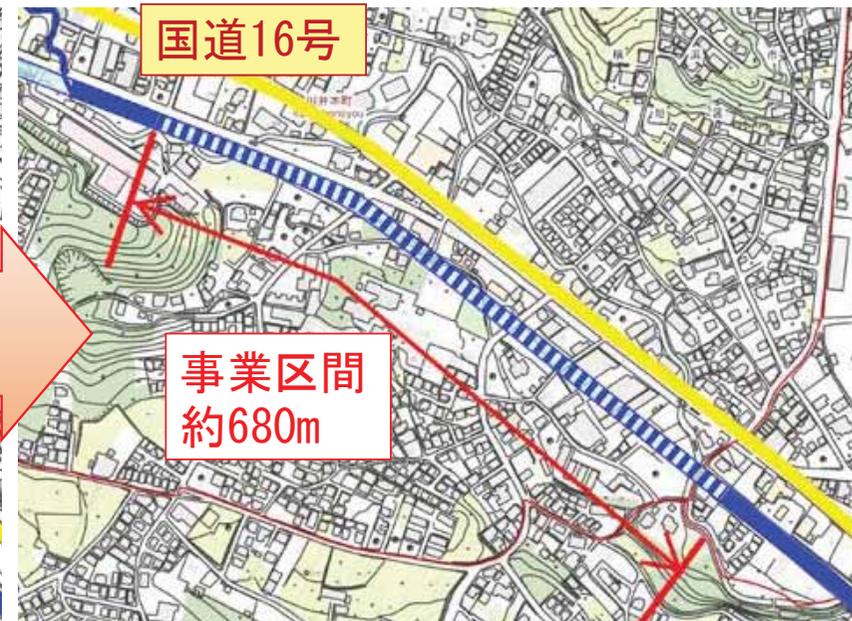


4. 事業の効果

現況河川と
浸水想定(50mm/hr)



改修後河川



総事業費・事業手法

河川整備費：約50億円（国費約17億円、県費約17億円、市費約17億円）

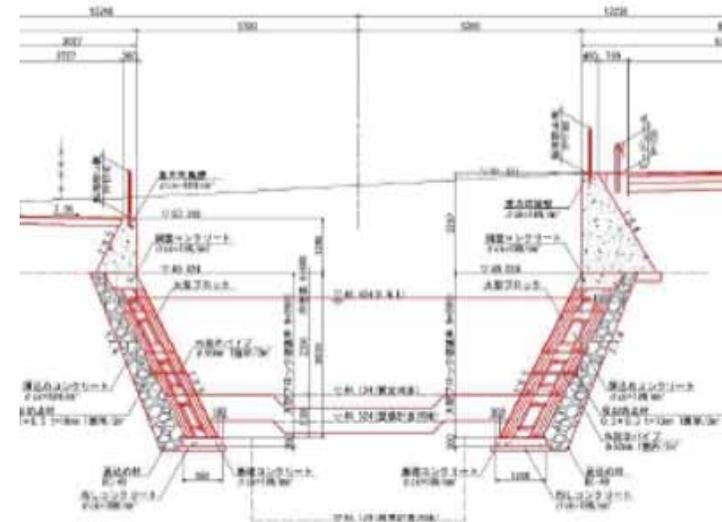
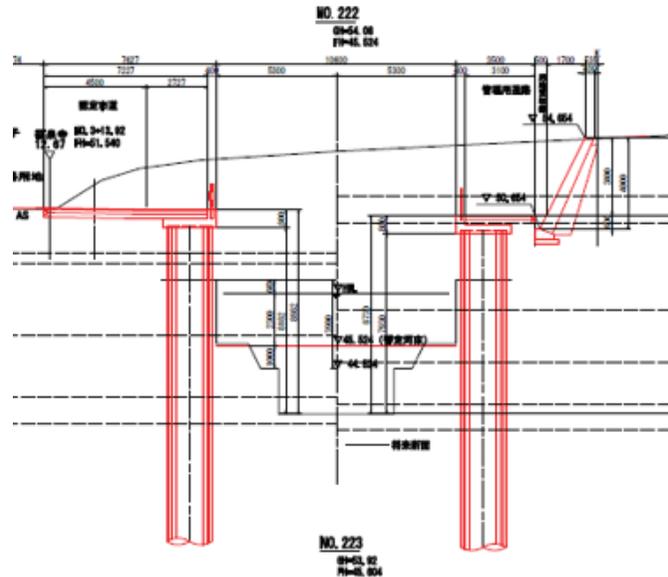
項目	金額（税込）	内訳	内訳詳細
用地費	約 23.4億円	用地取得費：5.8億円 物件補償費：約17.6億円	—
補償費	約2.5億円	支障移設費：2.5億円	
工事費	約21.6億円	本工事費：12.9億円	護岸：12.9億円
		附帯工事費：8.7億円	道路橋（6橋）：8.7億円
設計費	約 2.5億円	測量設計費：2.5億円	—
計	約 50億円		

○主な変更点

総事業費 前回評価…約58億円 今回評価…約50億円

- ・物件補償費が前回評価より5億円増…物件(工場)の補償について
詳細な調査により増額
- ・工事費が前回評価より13億円減… 主に護岸工法による縮減

大型ブロック護岸



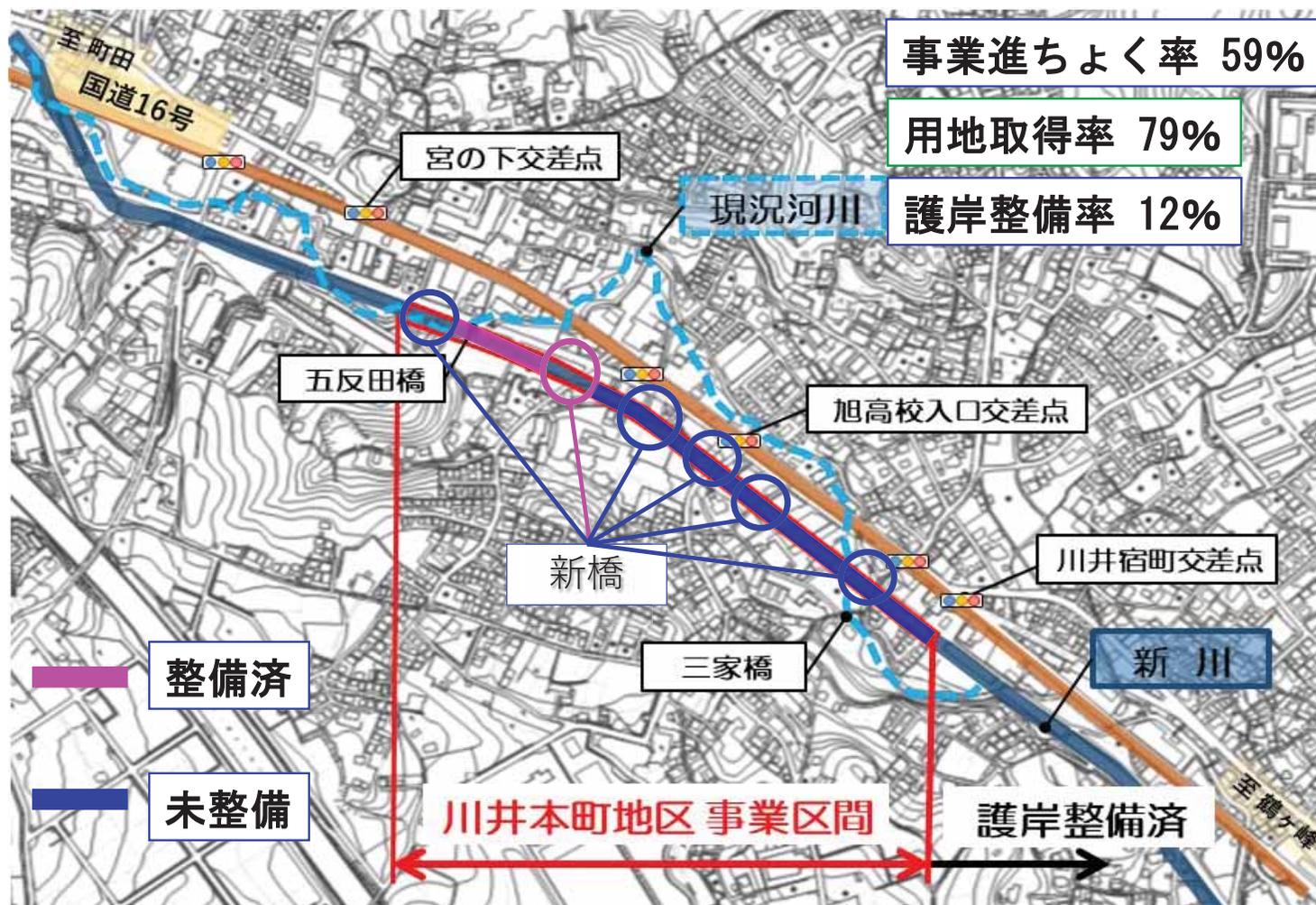
一部区間において、地質調査の結果により地山が比較的良質
 であることが判明
 鋼管護岸から大型ブロック護岸に変更することにより、工事費を縮減

護岸形式
 (施工費)

鋼管護岸
 (1, 490万円/m)

大型ブロック
 (400万円/m)

5. 事業進捗について 残事業の内容



5. 事業進捗について

写真①改修前



写真②改修後



事業の投資効果

社会的割引率	4%	2%
総便益(B)(百万円)	6,314	11,165
総費用(C)(百万円)	5,727	6,092
費用便益比(B/C)	1.10	1.83

事業の投資効果（感度分析）

		全事業		残事業	
		4%	2%	4%	2%
基本		1.10	1.83	2.20	3.38
事業費	+10%	1.06	1.77	2.04	3.15
	-10%	1.15	1.90	2.39	3.64
工期	+10%	1.07	1.80	2.14	3.33
	-10%	1.14	1.87	2.27	3.44
資産	+10%	1.20	2.00	2.40	3.68
	-10%	1.00	1.67	2.00	3.08

7. 対応方針（案）

対応方針(案)	現在の計画通り、事業を継続します。
対応方針(案)とした理由	再評価を行った結果、事業効果も見込まれており、河川改修による流下能力向上に向けて、引き続き事業を実施していきます。

(様式4)

公共事業再評価調書(案)

番 号	下河-3	事業担当局課	下水道河川局河川事業課																																																													
事業名	都市基盤河川帷子川河川改修事業(川井本町地区)		採択年度	令和元年																																																												
施工場所	旭区川井宿町5番地7から川井本町115番地1		経過年数	5年																																																												
目的及び 事業概要	<p>帷子川流域では急速な都市化の伸展に伴い、降雨時に流出量が増大しており、帷子川の流下能力不足により浸水被害がたびたび発生しています。</p> <p>本事業は、浸水被害は軽減するため、主に旭区川井本町地区を対象として、流下能力を向上させる整備を行うものです。</p> <p>【治水安全度】50mm/hr 【流域面積】約0.4 km²</p> <p>【改修計画延長】680m 【浸水想定面積】約2.7 ha 【用地】約3,750m²</p> <p>【道路橋】6橋</p>																																																															
		当 初(事業採択時)	今回再評価(令和6年度)																																																													
	事業期間	令和元年度～令和15年度	令和元年度～令和15年度																																																													
	事業費	合 計	58 億円	50 億円																																																												
		国 費	19 億円	17 億円																																																												
		県 費	19 億円	17 億円																																																												
		市 費	19 億円	17 億円																																																												
	変更内容	護岸工法等を詳細に検討した結果、主に鋼管護岸から大型ブロックに変更したことにより、工事費が縮減されたことが起因し、総事業費が減額となっている。																																																														
上位計画等	本市の中期4か年計画2022-2025において中期的な戦略の一つとして「風水害に強い都市づくり」を位置づけており、河川の浸水対策を「社会継続被害の最小化」に向けた取り組みとして推進しています。																																																															
関連事業	特になし																																																															
事業スケジュール	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>R8</th> <th>R9</th> <th>R10</th> <th>R11</th> <th>R12</th> <th>R13</th> <th>R14</th> <th>R15</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用地取得 物件補償</td> <td>←</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測量設計</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工事 支障移設</td> <td></td> <td></td> <td>←</td> <td></td> <td>→</td> </tr> </tbody> </table>				項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	用地取得 物件補償	←														測量設計			←												工事 支障移設			←											→
項目	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15																																																		
用地取得 物件補償	←																																																															
測量設計			←																																																													
工事 支障移設			←											→																																																		

総事業費		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>金額 (税込)</th> <th>内訳</th> <th>内訳詳細</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用地取得費</td> <td>約23.4億円</td> <td>用地取得費：約5.8億円 物件補償費：約17.6億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>補償費</td> <td>約2.5億円</td> <td>支障移設費：約2.5億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工事費</td> <td rowspan="2">約21.6億円</td> <td>本工事費： 約12.9億円</td> <td>護岸：約12.9億円</td> </tr> <tr> <td>附帯工事費：約8.7億円</td> <td>道路橋（6橋）：約8.7億円</td> </tr> <tr> <td>設計費</td> <td>約2.5億円</td> <td>設計費： 約2.5億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>約50億円</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	金額 (税込)	内訳	内訳詳細	用地取得費	約23.4億円	用地取得費：約5.8億円 物件補償費：約17.6億円		補償費	約2.5億円	支障移設費：約2.5億円		工事費	約21.6億円	本工事費： 約12.9億円	護岸：約12.9億円	附帯工事費：約8.7億円	道路橋（6橋）：約8.7億円	設計費	約2.5億円	設計費： 約2.5億円		計	約50億円		
		項目	金額 (税込)	内訳	内訳詳細																							
		用地取得費	約23.4億円	用地取得費：約5.8億円 物件補償費：約17.6億円																								
		補償費	約2.5億円	支障移設費：約2.5億円																								
		工事費	約21.6億円	本工事費： 約12.9億円	護岸：約12.9億円																							
				附帯工事費：約8.7億円	道路橋（6橋）：約8.7億円																							
		設計費	約2.5億円	設計費： 約2.5億円																								
計	約50億円																											
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化	<p>帷子川の未改修区間は川幅が狭く、蛇行しており、大雨の際に川井橋上流でボトルネックとなることにより流下能力が不足しています。これにより、直近では平成25年、26年に床上・床下浸水が発生しています。そのため、必要な河川断面を確保し、まっすぐな流れにすることで流下能力を向上させる必要があります。</p> <p>また、本事業は帷子川水系河川整備計画（平成26年12月、神奈川県）に基づき、当該地区では50mm/hr降雨を対象とした整備を進めています。</p>																										
	事業の 投資効果 ・ 事業効果等 (費用便益分析等)		事業全体	残事業																								
		割引率	4%(2%)																									
		総便益(B)(百万円)	6,314(11,165)	6,279(11,054)																								
		総費用(C)(百万円)	5,727(6,092)	2,849(3,270)																								
		費用便益比(B/C)	1.10(1.83)	2.20(3.38)																								
		事業費+10%	1.06(1.77)	2.39(3.15)																								
		工期+10%	1.07(1.80)	2.14(3.33)																								
資産-10%	1.00(1.67)	2.00(3.08)																										
	[その他特記事項] 感度分析：事業費、工期、資産において、想定外の10%の増減が発生した場合の事業の経済的影響を分析																											

事業の 進捗状況	事業進捗率%	令和元年度の事業開始より、令和5年度末までに当該区間の護岸改修及び橋梁築造工事を推進し、事業が59%進捗しました。用地は2,960 m ² を取得し、79%の進捗となっています。また、改修済みの護岸延長は、計画延長に対して12%の進捗となっています。
	59%	
	用地取得率%	
	79%	
	供用等の状況	
工事完了区間活用		

事業の課題 及び 進捗見込み	<p>当該地区での浸水被害軽減を図るためには、新規に整備する河川改修を完了し、事業区間上流域からの雨水を新規河川に流入させる必要があります。</p> <p>引き続き、未買収用地の取得及び河川改修を進め令和 15 年度の事業完了に向けて進めていきます。</p>	
その他 (コスト削減項目等)	<p>・環境への配慮：工事による周辺の皆様への影響を可能な限り低減いたします。</p> <p>市街地での工事のため、作業基地への資材の搬出入などに伴う工事車両の通行については、交通誘導員を適切に配置し、作業基地周辺の安全性の確保及び周辺道路の交雑緩和に努めます。</p> <p>工事中の低公害型建設機械の使用や建設副産物のリサイクルを行うとともに、横浜市環境配慮指針に基づいて今後の設計・施工段階において積極的に環境に配慮して取り組みます。</p> <p>・本事業で、新しく河道を整備した区間を暫定的に洪水を貯留できる施設として利用していきます。</p>	
その他	特になし	
添付資料	位置図 事業概要 事業進捗 現況写真	
対応方針 (案)	継 続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2 ----- 【見直し内容】
	中 止	
対応方針 (案) とし た理由	再評価を行った結果、事業効果も見込まれており、河川改修による流下能力向上に向けて、引き続き事業を実施していきます。	

※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

位置図



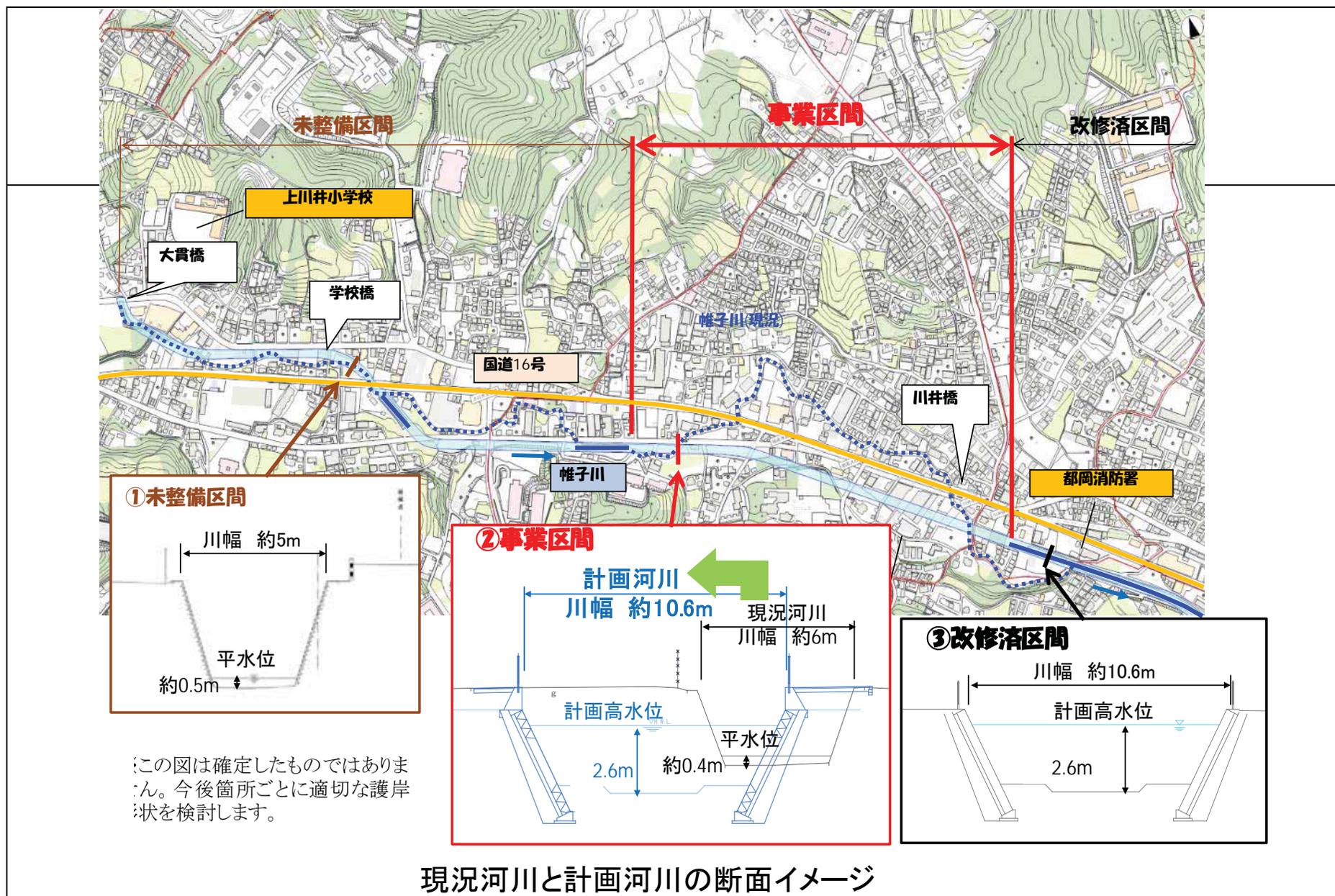
○主な事業概要

用地取得：約3,750m²

河川整備・護岸設置：約620m

道路橋設置：6橋

事業概要



表①

浸水被害	
平成25年4月 (大雨警報)	床上浸水9棟 床下浸水22棟
平成26年10月 (台風18号)	床上浸水5棟 床下浸水10棟



床上浸水 浸水深 0.5~1.0m
(大人の腰までつかる)
床下浸水 浸水深 0~0.5m
(大人の膝までつかる)

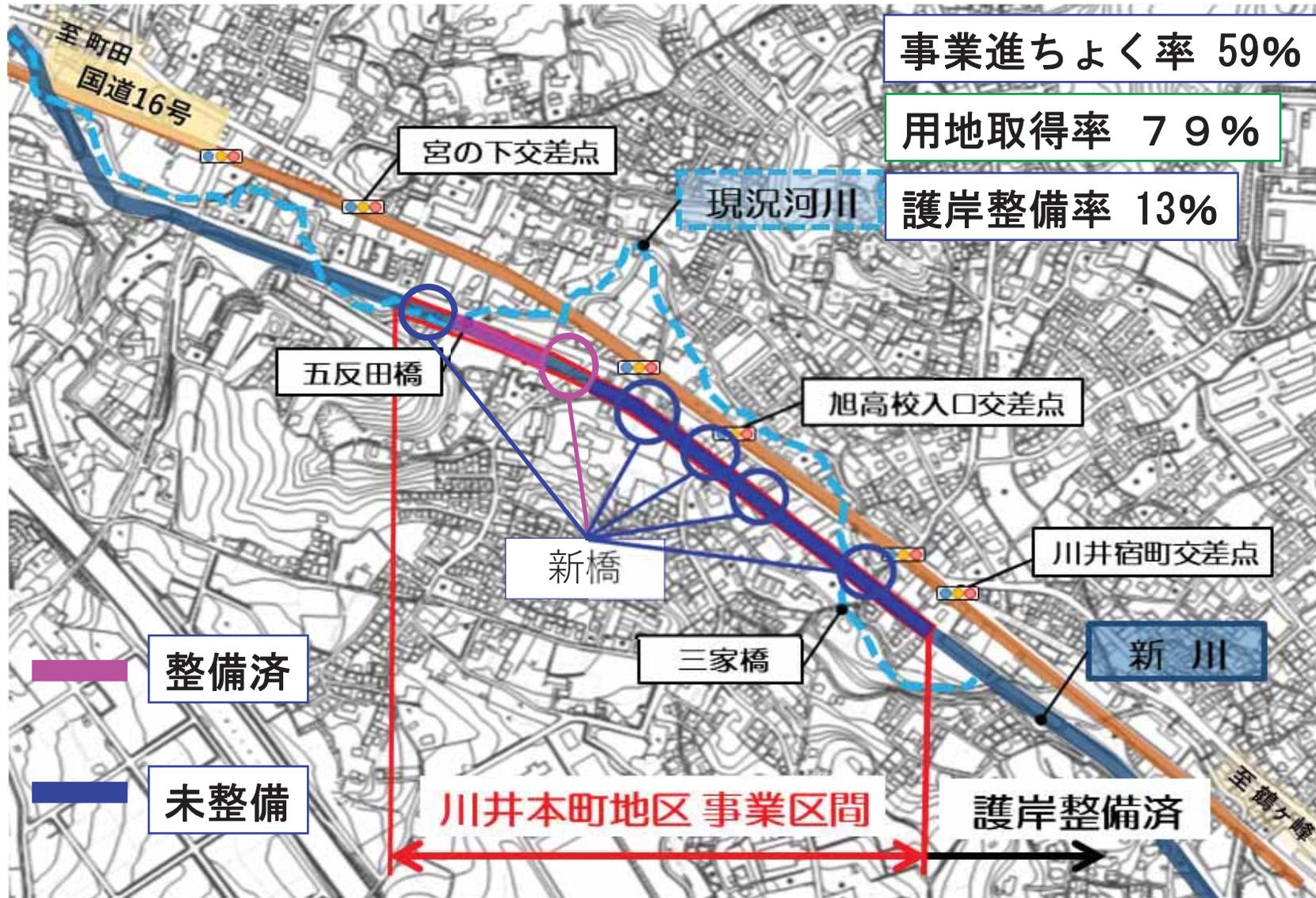


ボトルネックにより
流下能力が不足



写真①~③河川整備状況と大雨による浸水状況(平成26年10月台風18号)

事業進捗について



現況写真

写真①改修前



写真②改修後

